

【別紙3】出力成果物概要説明

【凡例】
 ○…必要なもの、×…不要なもの
 △…場合によっては不要なもの

No.	標準的な工程	SLCPプロセス ※プロセス名冒頭の 数字は、ガイドライン の章番号である。	タスク	出力成果物	成果物要素	成果物要素作成概要	記載方法に関する参考情報		テラリングを行う際の参考情報	
							表記法(案)	様式(案) 目次(案)	特許庁アーキテ クチャ標準仕様 書に準拠するシ ステム	特許庁アーキテ クチャ標準仕様 書に準拠しないシ ステム
1	-	1.システム開発プロセス開始の準備プロセス/ソフトウェア実装プロセス開始の準備プロセス	プロジェクト計画書改定	プロジェクト計画書	プロジェクト計画	・システム開発を円滑に遂行するため、調達仕様書および提案資料に基づき、開発スケジュールおよびWBS、課題管理方針、コミュニケーション計画等を策定する。	【目次案1】	○	○	
2					プロセスと出力成果物と成果物要素との対応関係整理表	・各工程の各プロセスにおける出力成果物を明らかにした表を作成する。また、各成果物要素がどの出力成果物に記載されるのか、出力成果物と成果物要素の対応関係についても表に整理する。 ・テラリングをして成果物名を変更した場合は、本ガイドラインと変更後の成果物名の対応関係についても把握できるようにする。				表形式
3	2.システム要件定義プロセス	2.システム要件定義プロセス	設計・開発準備	設計・開発実施計画書	設計・開発実施計画(基本設計工程)	・設計・開発の進め方の大方針や基本設計工程で行う作業の方針について、例えば、以下の内容を記載する。 - 設計方針 設計の目的 設計工程の各プロセスにおけるタスク間の入出力関係 設計工程の各プロセスにおける各成果物の入出力関係 - 作業開始条件・終了条件 - 開発環境・開発方法		○	○	
4					業務フロー図	・システム化対象の業務の全体像が把握できるように、各業務の前後関係等の関連を表現した図を作成する。	UML(アクティビティ図)	×	○	
5					業務フロー図(BPMN)	・システム化対象の業務フローを、BPMN2.0の表記法に従って、BPMNモデリングレベルの分析モデルで表現した図を作成する。	BPMN2.0 ※必須	○	×	
6					業務一覧	・システム化対象の業務を網羅的に管理するために、業務の名称や概要を一覧形式で表現する。 ・開発対象のシステムが実現すべき機能要件の数や、要件の過不足、要件間の重複がないかなどを確認するために、機能要件の概要を一覧化する。	表形式	【様式案1】	○	○
7					ビジネスルール定義書	・システム化対象の業務上の制約やルールを理解するために、ルールの名称と内容を定義する。		○	○	
8					非機能要件一覧	・開発対象のシステムが実現すべき非機能要件の過不足、要件間の重複や矛盾がないかなどを確認するために、非機能要件の概要を一覧化する	表形式	【様式案2】	○	○
9					BPMN記載ルール	・BPMNの記法を定める。 ・特許庁アーキテクチャ標準仕様書の「BPMN記載ルール」を遵守したルールとする。 ・「BPMN記載ルール」と同一であっても構わない。 ・「BPMN記載ルール」を遵守していればルールを追加しても良い。		○	×	
10					ID付与ルール	・開発者間のコミュニケーションを促進するために、成果物内で用いるIDの付与ルールを定義する。 ・ID付与対象とID付与ルールを定める。		○	○	
11					UI規約(基本設計工程)	・画面および帳票のユーザビリティ向上のために、フォントや配色、ボタン配置などの設計ルールを定義する。 ・ディスプレイサイズと要件から決定したフォントのサイズ、業務要件や利用者特性から決定した配色・レイアウト、等を定義する。 ・必要に応じて、特許庁アーキテクチャ標準仕様書参考2「画面・帳票編」を参考にする。		○	○	
12					パラメータ一覧(基本設計工程)	・パラメータとは、プログラムの変更なしにシステムの動作を変更することを目的としてアプリケーションから切り出された設定値のことである。少なくとも以下の点を記載する。 - パラメータID - パラメータ名 - 概要 - 種類(数値、文字列、等) - フォーマット - 値範囲 - デフォルト値	表形式		○	○
13					コーディング規約(基本設計工程)	標準コーディング規約(基本設計工程)	・例えば以下の点についてコーディングを行う際の規約を記載する。なお、この段階で作成が難しい場合は、少なくとも考え方を記述して提示すること。 - 目的 - ツール、プロジェクトの構成 - 命名規約 - コメント規約 - コーディングスタイル/ルール - デザインパターン/アンチパターン		○	○
14					セキュアコーディング規約(基本設計工程)	・ソフトウェア及びハードウェアの脆弱性を悪用した不正を防止するためのコーディングを行うための規約を記載する。		○	○	
15	3.システム方式設計プロセス	システム方式設計	システム方式設計書	業務設計書	・業務全体フローを踏まえて、システム化対象の業務をソフトウェアで実現する事項(機能)、ハードウェアで実現する事項(データストア)及び手作業の3種類に分類し、各事項の前後関係などの関連を表現する。		×	○		
16				機能一覧	・開発対象の機能を網羅的に管理するために、機能名や概要を一覧形式で表現する。	表形式	【様式案3】	○	○	
17	基本設計 ※当該工程で出力される成果物を総称し、「基本設計書」と言う。	基本設計	基本設計	機能設計書	・開発対象の機能の仕様を整理するために、機能名と機能の起動・終了条件、利用者からみたシステムの仕様、利用する画面、帳票、エンティティなどを記載する。	UML(アクティビティ図) 文章形式	○	○		
18				メッセージ一覧	・メッセージを網羅的に管理するために、メッセージID、メッセージ文字列、発生元、表示先等を一覧に整理する。	表形式	【様式案4】	○	○	
19				画面一覧	・システム化対象の画面を網羅的に管理するために、画面名や概要等を一覧に整理する。	表形式	【様式案5】	○	○	
20				画面設計書(基本設計工程)	・システム化対象の画面のレイアウトや表示項目を整理するために、画面名とそのレイアウトを図形式で表現する。	図形式		○	○	
21				帳票一覧	・システム化対象の帳票を網羅的に管理するために、帳票名や概要等を一覧に整理する。	表形式	【様式案6】	○	○	
22				帳票設計書(基本設計工程)	・システム化対象の帳票のレイアウトや表示項目を整理するために、帳票名とそのレイアウトを図形式で表現する。	図形式		○	○	
23				画面遷移図(基本設計工程)	・システム化対象の画面間の関係を整理するために、画面名を付与したノードを記載し、画面遷移が存在するノード間を矢印で結ぶことにより画面間の遷移とその契機を表現する。	UML(ステートチャート図)	○	○		
24				共通設計書(基本設計工程)	・機能間で重複した内容を別々に設計してしまうことを防ぐために、設計・開発するシステムの全機能を母集団として、母集団内の各機能で共通して行う業務的な意味を持たない処理を、共通部品として抽出する。		○	×	○	

No.	標準的な工程	SLCPプロセス ※プロセス名冒頭の 数字は、ガイドライン の章番号である。	タスク	出力成果物	成果物要素	成果物要素作成概要	記載方法に関する参考情報		テーラリングを行う際の参考情報			
							表記法(案)	様式(案) 目次(案)	特許庁アーキ テクチャ標準仕様 書に準拠するシ ステム	特許庁アーキ テクチャ標準仕様 書に準拠しないシ ステム		
25	4.ソフトウェア要件定 義プロセス		ソフトウェア要件定義	ソフトウェア要件定義 書	サービスインターフェース一覧 (基本設計工程)	・基本設計工程ではサブシステム間のサービスインターフェース一覧を作成する。一覧には少なくとも以下の点を記載する。 - サービスインターフェースID - サービス名 - サービスインターフェース名 - プロトコル - 電文形式 - 入出力項目 - 提供サブシステム - 利用サブシステム	表形式		○	×		
26					内部インターフェース一覧 (基本設計工程)	・サブシステム内のインターフェースからサービスインターフェースを除いたもの(内部インターフェース)の一覧を作成する。一覧には少なくとも以下の点を記載する。 - 内部インターフェースID - 内部インターフェース名 - プロトコル - 電文形式 - 入出力項目 - 利用・提供サブシステム	表形式		○	×		
27					外部インターフェース一覧 (基本設計工程)	・開発対象のシステムがアクセスする外部システムとのインターフェース、および開発対象のシステムをアクセスする外部システムとのインターフェースを網羅的に管理するために、インターフェース名やデータ項目、プロトコルなどを記載する。	表形式	【様式案7】	○	○		
28					システム構成要素一覧	・各サブシステムを構成するシステム構成要素を一覧で記載する。 ・システム構成要素の設計内容が記載された出力成果物も合わせて記載する。	表形式	【様式案10】	○	×		
29					システム利用者定義書	・システム利用者に関する前提条件を整理するために、システム利用者の役割名、配慮すべき点などを抽出し、整理する。	表形式		○	○		
30					技術方式概要設計書	・システム構成要素や論理サーバのレベルの設計を行う。以下の内容を記載する。 - 多階層構造図: 多階層構造とシステム構成要素の設計 - ソフトウェア構成図: 論理サーバとプログラムプロダクトのソフトウェアスタックの設計 - 処理方式概要: 特許庁アーキテクチャ標準仕様書に示された処理方式の論理サーバレベルでのシーケンスの設計			○	×		
31					AP基盤要件定義書	・AP基盤に期待される要件を整理するために、APとAP基盤の全体構成や要件一覧を記述する。				×	※共通設計書を作成するため不要	○
32					AP基盤機能一覧	・AP基盤の機能を網羅的に管理するために、機能の概要、実現方式を記述する。	表形式			×	※共通設計書を作成するため不要	○
33			用語集作成	用語集	用語集	・設計書に記載された用語を統制するために必要な、用語の定義を記載する。	表形式		○	○		
34			概念データモデル定 義	概念データモデル 定義書	コード一覧	・特許庁システム内で規定されているコードを一覧化して網羅的に管理するために、コード体系とコード名、コード値の意味を記載する。	表形式		○	○		
35					概念ER図	・システム化対象のデータの概念と関連を整理するために、関係のあるデータをエンティティとしてまとめ、エンティティ間の関連の有無も表現する。	ER図形式		○	○		
36					エンティティ一覧	・システム化対象のエンティティを網羅的に管理するために、エンティティ名や概要などを一覧形式で表現する。	表形式		○	○		
37					エンティティ定義書	・ER図に定義したエンティティの詳細情報を整理するために、エンティティ名、属性名、論理データ型、制約などを記載する。			○	○		
38					CRUDマトリックス (機能レベル)	・機能とエンティティの関連を検証するために、どの機能がどのエンティティを作成、参照、更新、削除するのかを記載する。	マトリクス形式		○	○		
39	ステートチャート図	・複雑な状態遷移の仕様を理解するために、エンティティ(複数の状態を持つものや事象)と、その状態および状態変化の条件を定義する。			UML(ステートチャート 図)		○	○				
40	データ辞書	・テーブル名、カラム名、サービスインターフェース名、入出力項目名の論理名を決める際に使用する用語、及び、実際に命名したテーブル名、カラム名、サービスインターフェース名、入出力項目名の論理名を管理する。					○	×				
41	設計・開発準備	設計・開発実施計画 書	設計・開発実施計画 (詳細設計工程)	設計・開発実施計画 (詳細設計工程)	・詳細設計工程で行う作業の方針を、設計・開発実施計画書に反映する。			○	○			
42			処理一覧	・システム化対象の処理を網羅的に管理するために、処理名や概要を一覧形式で表現する	表形式	【様式案8】	○	○				
43			オンライン処理方式設計書	・オンライン処理に関する仕様を理解するために、入出力や処理の流れ、扱うデータや画面などを記載する	UML(アクティビティ図) 文章形式		×	○				
44			バッチ処理方式設計書	・バッチ処理に関する仕様を理解するために、入出力や処理の流れ、扱うデータを記載する。	UML(アクティビティ図) 文章形式		×	○				
45			オンライン処理方式(画面系) 設計書	・特許庁アーキテクチャ標準仕様書で定義されたシステム構成要素であるプレゼンテーションロジックと業務アプリケーション(ユーザ)について、以下の設計内容をそれぞれ分けて記載する。 ・プレゼンテーションロジックで実現する機能について、入出力や処理の流れ、扱うデータを記載する。 ・業務アプリケーション(ユーザ)で実現する機能について、入出力や処理の流れ、扱うデータを記載する。	UML(アクティビティ図) 文章形式		○	×				
46			オンライン処理方式(サービス系) 設計書	・特許庁アーキテクチャ標準仕様書で定義されたシステム構成要素であるBPMS、BPMS補完機能及び業務アプリケーション(システム)について、以下の設計内容をそれぞれ分けて記載する。 ・BPMSがプロセスデータとして保持するデータの設計を行う。 ・BPMS補完機能で実現する機能について、入出力や処理の流れ、扱うデータを記載する。 ・業務アプリケーション(システム)で実現する機能について、入出力や処理の流れ、扱うデータを記載する。	UML(アクティビティ図) 文章形式		○	×				
47			バッチ処理方式設計書	・特許庁アーキテクチャ標準仕様書で定義されたシステム構成要素である業務アプリケーション(バッチ)について、以下の設計内容を記載する。 ・業務アプリケーション(バッチ)で実現する機能について、入出力や処理の流れ、扱うデータを記載する。 ・ディレイドバッチ処理を行う場合は、オンライン処理方式(画面系)との連携が把握できるよう記載する。	UML(アクティビティ図) 文章形式		○	×				
48			BRMS設計書	・「ビジネスルール定義書」で定義されたルールのうち、BRMSで実行するルールを抽出し、デシジョンテーブルなどで記載する。 ・「ビジネスルール定義書」とトレーサビリティを保つため、対応付けを記載する。	表形式 文章形式			△ ※BRMSを用いない場合は不要	×			
49			外部システム連携処理方式設計書	・特許庁アーキテクチャ標準仕様書で定義されたシステム構成要素であるESBと外部システム互換機能について、以下の設計内容をそれぞれ分けて記載する。 ・ESBで実現する機能について、入出力や処理の流れ、扱うデータを記載する。 ・外部システム互換機能で実現する機能について、入出力や処理の流れ、扱うデータを記載する。	UML(アクティビティ図) 文章形式		○	×				
50			ジョブ設計書	・扱うデータや起動タイミング、ジョブネットなどを記載する			○	○				
51			画面設計書(詳細設計工程)	・画面に関する仕様を理解するために、表示項目の詳細(桁数やフォント)、ボタンを押下した際の動作、入力チェック仕様などを記載する			○	○				
52			帳票設計書(詳細設計工程)	・帳票に関する仕様を理解するために、表示項目の詳細(桁数やフォントなど)を記載する			○	○				

No.	標準的な工程	SLCPプロセス ※プロセス名冒頭の 数字は、ガイドライン の章番号である。	タスク	出力成果物	成果物要素	成果物要素作成概要	記載方法に関する参考情報		テーラリングを行う際の参考情報			
							表記法(案)	様式(案) 目次(案)	特許庁アーキテ クチャ標準仕様 書に準拠するシ ステム	特許庁アーキテ クチャ標準仕様 書に準拠しないシ ステム		
53	詳細設計 ※当該工程で 出力される成 果物を総称し、 「詳細設計書」 と言う。	5.ソフトウェア方式設 計プロセス			サービスインターフェース一覧 (詳細設計工程)	・「サービスインターフェース(基本設計工程)」にサブシステム内サービスインタ フェースを追加する。なお、掲載項目は同じである。 ・扱うデータの物理名や型を追加する。	表形式		○	×		
54					内部インターフェース一覧 (詳細設計工程)	・内部インターフェースの仕様を整理し、扱うデータの物理名や型を追加する。	表形式		○	×		
55					外部インターフェース一覧 (詳細設計工程)	・外部インターフェースの仕様を整理し、扱うデータの物理名や型を追加する。	表形式		○	○		
56					UI規約(詳細設計工程)	・画面や帳票の実装を標準化するために、採用する技術や製品に特化した部 品の利用方法などのルールについて記述する。 ・必要に応じてUI規約(基本設計工程)を更新する。			○	○		
57					画面遷移図(詳細設計工程)	・システム化対象の画面間の遷移とオンライン処理との関係を整理するた めに、画面間の遷移を表す矢印に対応するオンライン処理の関係を追記する。			○	○		
58					パラメーター一覧(詳細設計工程)	・基本設計から追加があれば「パラメーター一覧(基本設計工程)」を更新する。 ・新たに以下の点について記載する。 -パラメータの定義先(テーブル・カラム名、ファイル名、等) -変更反映タイミング -不正値の場合の挙動 -動作保証範囲	表形式		○	○		
59					技術方式詳細設計書 (詳細設計工程)	・特許庁アーキテクチャ標準仕様書のAPレイヤ・コンポーネント定義のルー ルを踏まえて、コンポーネントレベルの設計を行ったもの。少なくとも以下の内 容について記載する。 -コンポーネント一覧(少なくとも以下の項目について記載する。) コンポーネント名 コンポーネントの種類(リクエストロジック、ビジネスロジック、等) コンポーネントが属するレイヤ (インタフェース層、ロジック層、インフラストラクチャ層) コンポーネントの責務 -コンポーネント構成図:各コンポーネントのアプリケーションで作り込む部 分とそれ以外の部分(共通部品、既製モジュール等)を示したもの。 -コンポーネント関連図:コンポーネント間の連携を表したもの。 -既製モジュール一覧:既製モジュールを使用した場合は、使用したモ ジュールと使用して構築したコンポーネントについて表に整理する。	・コンポーネント一覧: 表形式 ・コンポーネント構成図: 図形式 ・コンポーネント関連図: UML(コンポーネント図) ・既製モジュール一覧: 表形式		○	×		
60					共通設計書 (詳細設計工程)	・共通設計書(基本設計工程)で抽出した共通部品について、その実現方法 や、利用者向けの外部仕様及び利用方法について記載する。			○	×	※AP/HW一括調 達の場合は不要	
61					AP基盤機能設計書	・各AP基盤機能の実現方法を整理するために、外部仕様を記述する。				×	※共通設計書 を作成するため不 要	○
62					フロー処理設計書	・ビジネスプロセスの各アクティビティと、それに紐づく画面・アプリケーション・ データの対応関係を多階層構造にプロットしたもの。				【様式案9】	○	×
63					論理データモデル設 計	論理データモデル 設計書	論理ER図	・システム化対象の概念ER図をベースに、実際の画面や帳票で扱うデータを 論理構造を整理するために、エンティティやその要素、およびエンティティ間の 関係を個別の実装技術に依存しない形で表現する。	ER図形式		○	○
64							CRUDマトリックス (処理レベル)	・処理とテーブルの関連を検証するために、どの処理でどのテーブルを作成、 参照、更新、削除するのかを記載する。	マトリクス形式		○	○
65					設備条件整理	設備条件整理結果 報告書	設備条件整理結果報告書	・システム化対象の設備に必要な基本要件を整理するために、信頼性、性 能、運用、安全性、移行、拡張性等の要件を記載する。			△ ※AP/HW一括調 達の場合は不要	△ ※AP/HW一括調 達の場合は不要
66					プログラム設 計・製造・単体 テスト	6.ソフトウェア詳細設 計プロセス	設計・開発準備	設計・開発実施計画 書 (プログラム設計・製造・単体テスト工 程)	・プログラム設計・製造で行う作業の方針を、設計・開発実施計画書に反映す る。			○
67	プログラム設計書	プログラム設計	・詳細設計工程の設計内容をプログラミング言語に最適化するために、各プロ グラムの名称、構造、内部仕様、共通部品、共通領域に関する仕様を記載す る。	文章形式				○	○			
68		技術方式詳細設計書 (プログラム設計・製造・単体テスト工 程)	・特許庁アーキテクチャ標準仕様書のAPレイヤ・コンポーネント定義のルー ルを踏まえて、クラスレベルの設計を行ったもの。技術方式詳細設計書(詳細設 計工程)をベースに作成する。 -コンポーネント一覧に追加する項目 各コンポーネントを構成するクラス 各クラスの責務 -クラス関連図:クラス間の連携を表したもの。	・コンポーネント一覧: 表形式 ・コンポーネント関連図: UML(クラス図)				○	×			
69	プログラム設計	コーディング規約(プ ログラム設計工程)	標準コーディング規約(プログラム設 計工程)	・標準コーディング規約(基本設計工程)で作成した項目内容に修正があ れば、修正後の内容を記載する。 ・新たに下記の項目について記載する。 -フレームワーク利用ガイド -共通コンポーネント利用ガイド -テストに関する注意事項					○	○		
70			セキュアコーディング規約(プログラム 設計工程)	・セキュアコーディング規約(基本設計工程)で作成した内容から修正があ れば、修正後の内容を記載する。					○	○		
71	環境設定定義書	環境設定定義書	環境設定定義書	・システム構成について記載する。 ・OS、ミドルウェアの設定方針、設計結果、設定根拠、設定値を記載する。 ・アプリケーションを動作させるための設定値を記載する。					△ ※AP/HW分割調 達の場合は不要	△ ※AP/HW分割調 達の場合は不要		
72			導入指示書	・アプリケーションを動作させるための設定値を記載する。					△ ※AP/HW一括調 達の場合は不要	△ ※AP/HW一括調 達の場合は不要		
73	物理データモデル設 計	物理データモデル 設計書	テーブル一覧	・テーブルを一覧化して管理するために、テーブル名を記載する。			表形式		○	○		
74			テーブル設計書	・データベースのテーブルとして永続化すべきデータを整理するために、テ ブルの名称や属性、インデックスやビューについて定義する。					○	○		
75			ファイル設計書	・ファイル形式で利用するデータを管理するために、業務上利用するファイ ル名や格納するデータ名や概要、物理型名などを記載する。					○	○		
76	プログラム製造	プログラムソースコ ード	プログラムソースコード	・システムを動作させるプログラムソースコードを作製する。具体的には、ソ ースファイル、各種設定ファイルなどを作製する。					○	○		
77			BPMS実行可能モデル	・BPMSのプロセスエンジンに実装されるモデルを作製する。			BPMS2.0 ※必須		○	×		
78	単体テスト	単体テスト	単体テスト計画書	・単体テスト計画について関係者と意識を合わせるために、作業要領やスケ ジュールを記載する。					【目次案2】	○	○	
79			単体テスト項目表	・単体テストの項目を一覧化して管理するために、テスト順番やテスト項目 の内容、テストデータなどを記載する。					○	○		
80			単体テスト結果報告 書	・単体テストを実施したことを示すために、テスト結果をまとめる。			【目次案2】	○	○			
81			ソフトウェア	ソフトウェア	・ソフトウェアユニット単位で単体テストを実施済みのソフトウェアを作製する。			○	○			

No.	標準的な工程	SLCPプロセス ※プロセス名冒頭の 数字は、ガイドライン の章番号である。	タスク	出力成果物	成果物要素	成果物要素作成概要	記載方法に関する参考情報		テラリングを行う際の参考情報	
							表記法(案)	様式(案) 目次(案)	特許庁アーキテ クチャ標準仕様 書に準拠するシ ステム	特許庁アーキテ クチャ標準仕様 書に準拠しないシ ステム
82	結合テスト ※当該工程で 出力される報 告書を総称し、 「結合テスト結 果報告書」と言 う。	8.ソフトウェア結合テ ストプロセス	ソフトウェア結合テ スト	結合テスト全体計 画書	結合テスト全体計 画書	・結合テスト計画について関係者と意識を合わせるために、作業要領やスケ ジュールを記述する。 ・結合テスト工程を構成する3つのプロセス全体の計画書とする。		【目次案2】	○	○
83				結合テスト項目 表	結合テスト項目 表 (ソフトウェア結合観 点)	・ソフトウェア結合観点(アプリケーション基盤と複数のソフトウェアユニット単 位を結合させた状態:処理単位での結合確認)の結合テストの項目を一覧化して 管理するために、テスト項番、テスト項目概要、テストデータなどを記載する。		○	○	
84				ソフトウェア結合テ スト 結果報告書	ソフトウェア結合テ スト 結果報告書	・ソフトウェアユニット単位の結合テストの結果について記載する。		○	○	
85				ソフトウェア	ソフトウェア	・ソフトウェア結合観点を結合テストを実施済みのソフトウェアを作製する。		○	○	
86		9.ソフトウェア適格性 確認テストプロセス	ソフトウェア適格性確 認テ スト	結合テスト項目 表	結合テスト項目 表 (ソフトウェア適格性観 点)	・ソフトウェア適格性観点(1または複数の処理単位からなる機能単位)の結合 テストの項目を一覧化して管理するために、テスト項番、テスト項目概要、テ ストデータなどを記載する。		○	○	
87				ソフトウェア適格性確 認 テスト結果報告書	ソフトウェア適格性確 認 テスト結果報告書	・機能単位の結合確認テストの結果について記載する。		○	○	
88				ソフトウェア	ソフトウェア	・ソフトウェア的確性確認観点を結合テストを実施済みのソフトウェアを作製 する。		○	○	
89		10.システム結合プロ セス	システム結合テ スト	結合テスト項目 表	結合テスト項目 表 (システム結合観 点)	・システム結合観点(ソフトウェアをシステム(ハードウェア、PP)に配置した状 態。複数の機能単位を結合して構成される業務単位)の結合テストの項目を 一覧化して管理するために、テスト項番、テスト項目概要、テストデータなどを 記載する。		○	○	
90				結合テスト 全体結果報告書	結合テスト全体結果報告書	・結合テストを実施したことを示すために、テスト結果をまとめる。 ・結合テスト工程を構成する3つのプロセス全体の結果報告書とする。	【目次案2】	○	○	
91				システム	システム	・システム結合観点を結合テストを実施済みのシステムを作製する。		○	○	
92	総合テスト	11.システム適格性確 認テストプロセス	システム総合テ スト	総合テスト計 画書	システム総合テ スト計 画書	・システム総合テスト計画について関係者と意識を合わせるために、作業要領 やスケジュールを記述する		【目次案2】	○	○
93				総合テスト項目 表	総合テスト項目 表	・総合テスト観点(機能、非機能観点)の総合テストの項目を一覧化して管理 するために、テスト項番、テスト項目概要、テストデータなどを記載する。		○	○	
94				総合テスト結果報 告書	システム総合テ スト結果報告書	・システム総合テストを実施したことを示すために、テスト結果をまとめる。	【目次案2】	○	○	
95				システム	システム	・システム総合テストを実施済みのシステムを作製する。		○	○	
96	受入	12.システム受入支援 プロセス/ソフトウェ ア受入支援プロセス	システム受入支 援	受入テスト計 画書	受入テスト計 画書	・受入テスト計画について関係者と意識を合わせるために、テスト消化スケ ジュール、担当者などを記載する。		【目次案3】	○	○
97				受入テスト項目 表	受入テスト項目 表	・受入テストで実施するテスト項目を記載する。		○	○	
98				受入テスト結果 報告書	受入テスト結果報告書	・ユーザが操作を行った結果を報告書にまとめる。	【目次案3】	○	○	
99	教育研修	13.運用プロセス	利用者教育	教育・研修実施計 画書	教育・研修実施計 画書	・教育・研修計画について関係者と意識を合わせるために、タスクの内容やス ケジュール、担当者などを記載する。		【目次案4】	○	○
100				教育・研修実施報 告書	教育・研修実施報告書	・教育・研修がもれなく完了したことを顧客に報告するために、タスクの完了日 や状況などを記載する。	【目次案4】	○	○	
101				運用マニュアル	運用マニュアル	・システムの日々の運用を円滑に行い、障害時には復旧を迅速に行えるよう にするため、オペレーションベンダが実施するシステム監視、自動運転監視、 保守・保全、バックアップ媒体管理、およびシステムインテグレーションベン ダが実施するセキュリティ運用や故障対応について、その手順、および管理主 管を記載する。 ・パラメータの変更手順を記載する。		○	○	
102				利用者向け 操作マニュアル	利用者向け 操作マニュアル	・システムが提供する各機能について、機能概要、操作方法・手順及び入力 項目の説明等、利用者に必要な情報を整理して作成する。		○	○	
103				業務可視化資料	業務可視化資料	・ユーザ部門における、システム化された業務・システムへの理解を容易にす るため、システム化した業務の範囲及びその内容を定義する。	UML(アクティビティ図)	○	×	
104	移行	14.システム導入プロ セス	移行	移行管理に関する文 書	移行計 画書	・構築したシステムを本番環境へ移行するための移行計画について、移行ス ケジュール、移行体制、連絡体制、特許庁・関連業者の役割分担、移行作業 項目、移行作業項目ごとの作業分担を記載する。		【目次案5】	○	○
105				移行データ調査・分析 に関する文書	調査実施計 画書	・移行データの調査・分析を行うための計画書を作成する。 ・段階移行を行う場合は、段階移行期間中にのみ必要となるインタフェースの 調査を行うための計画書を作成する。		○	○	
106					調査実施手 順書	・移行データの調査・分析を行うための手順書を作成する。 ・段階移行を行う場合は、段階移行期間中にのみ必要となるインタフェースの 調査を行うための手順書を作成する。		○	○	
107					調査結果報 告書	・移行データの調査・分析を行った結果を記載する。 ・段階移行を行う場合は、段階移行期間中にのみ必要となるインタフェースの 調査を行った結果を記載する。		○	○	
108				移行データ整備に 関する文書	移行設 計書	・調査結果報告書を踏まえてに基づいて、データ及びシステムの移行設計を 行う。 ・移行に必要なツール(移行支援ツール、移行検証ツール等)を作成する場 合は、当該ツールの仕様を記載する。 ・段階移行を行う場合は、調査結果報告書を踏まえて、段階移行期間中にの み必要となるインタフェースの仕様を記載する。		○	○	
109				移行に関する手 順書	移行作業手 順書	・移行計画書に基づいて、システムまたはソフトウェアを本番環境へ移行す るための手順書を作成する。		○	○	
110					業務運用手 順書	・段階移行を行う場合は、各段階における移行後の業務運用手順について記 載する。		○	○	
111					システム運 用手順書	・段階移行を行う場合、各段階における移行後のシステム運用手順について 記載する。		○	○	
112				移行テストに 関する文書	移行テ スト結果報告書	・移行作業手順書による移行手順の確認、移行時間の計測などの移行テ ストを行い結果を記載する。 ・移行に必要なツールを作成した場合は、当該ツールのテストを行い結果を記 載する。		○	○	
113				移行リハーサルに 関する文書	移行リハ ーサル計 画書	・移行リハーサルのスケジュール、移行作業、体制、役割分担、作業条件及び コンティンジェンシープランなどについて記載する。 ・移行に際して他システムにも作業が発生する場合は、当該作業についても 記載する。		○	○	
114					移行リハ ーサル結 果報告書	・移行リハーサル計画書に基づいて、移行支援ツールを用いた移行デー タの整備、移行検証ツールを用いた移行データの検証及びコンティンジェン シープランに基づく対応について移行リハーサルを実施し、その結果について記 載する。		○	○	
115				本番移行に 関する文 書	本番移 行計 画書	・移行リハーサル結果報告書の内容を踏まえて、本番移行をする際の当日の スケジュール、役割分担、作業手順、コンティンジェンシープラン等について記 載する。		○	○	
116				移行作業結 果報告書	移行作 業結果報告書	・本番移行を実施し、移行検証ツールによる検証結果、エビデンスについて記 載する。	【目次案5】	○	○	
117				システム	システム	・システム移行を実施済みのシステムを作製する。		○	○	
118				—	15.プロジェクトの振り 返りプロセス	振り返 り	プロジェクト結果報 告書	プロジェクト結果報告書	・プロジェクトレビューを行い、その結果を記載する。	